

社会参加に向けて

- 「てんかん」の影響によって、こころや生活に変化が生じることがあります。
- そんな時に、こころや生活を支える「心理社会的支援」が役に立つことがあります。

☆生活を支えるためには

- 心理社会的支援に加えて、医療や特別支援教育、就労移行サービスなど、多様なサポートを活用することが大切です。
- 特に、ご家族などご本人の周囲の人たちの理解と協力が必要になります。

てんかんの心理社会的支援

- 心理社会的教育・学習
- 心理的カウンセリング
- 認知リハビリテーション
- 環境調整
- 社会技能訓練
- 服薬指導
- ソーシャルワーク
- ピア・カウンセリング
- 社会啓発活動

例：MOSES（モーゼス）

てんかん患者の生活の質（QOL）向上を目指して

同じ病気を持った仲間と一緒に、てんかんについて考えたり、学んだりするプログラムです。

医師や看護師、リハビリスタッフや心理士など専門職も一緒に参加します。

心理社会的教育の目指すところ

- **自分の理解を深める：**

自分の病気がわかると、困ったときの対処法が分かるようになります。

- **変化に気づけるようになる：**

疲れやすさ、体調などの細かな変化に気づくようになります。

- **周囲に助けを求める方法がわかる：**

自分の苦手なことがわかると、周りの人に助けを求めやすくなります。

多様なサポートが社会参加を助 けます



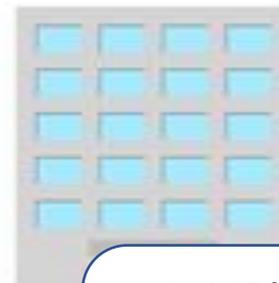
公共職業安定所
障害や適性、希望職種に応じて、職業相談や職業紹介、制度の紹介などを提供しています。また、公共職業訓練、トライアル雇用、ジョブコーチ支援などが行われています。



医学的リハビリテーション
認知的・身体的リハビリテーションや心理教育などを通して、病気と付き合うための幅広いリハビリテーションが行われています。



障害者就業・生活支援センター
自治体に設置されており、障害のある方が抱える課題に応じて、就業面・生活面の両方からサポートが行われています。



地域障害者職業センター
就職や職場定着のためのサポートを行います。評価、指導、各種職業リハビリテーションサービスを利用者に応じて実施します。